

オハイオ州・フィンドレー大学 奨学生 最終レポート

こんにちは。2012年8月から2013年5月までオハイオ州フィンドレー大学にて、たくさんの方を学ばせていただきました、2012年度奨学生 金田奈帆美(カナダナオミ)と申します。まずは、お礼を言わせてください。埼玉県のみなさん、Findlayのみなさん、家族や友人のおかげで、夢であった留学に挑戦することができ、無事に帰ってくることができました。本当にありがとうございます。

最高の一年だった！一言で私のあの一年を表すなら、この言葉がぴたりと当てはまります。大変だったこともありましたが、つらいと思ったこともあったような気がします、毎日が冒険でとても楽しく過ごさせていただきました。

最終レポートである今回は、特に心に残っていることをお話ししたいと思います。

この留学で強く知ったこと、それは「自分で動かないと始まらない」ということです。語学も楽しみも、ゴールのない無限大に魅力があるものですが、自分から一步を踏み込まないと広がっていかないということを知りました。そして、一步を踏み出した後、世界がどんどん広がっていくことも知りました。それがとても面白くて楽しいということも!!!

「自分で動かないと始まらない」、これを学んだきっかけは12月。ポジティブが自分の長所だと思っている私が、まさかのネガティブに陥った時期です。ネガティブになった原因は、就職活動が間近に控えているにも関わらず、将来が曖昧すぎること、英語がなかなか上達しない焦燥感、私と周りの友人たちを比較してしまい、自分に自信が持てなかったことです。(今となっては、つまらないことでよくよしていたなと自分に一喝したい気持ちです。)

川村教授の激励や友人との意見の衝突などを通して、人と比べるというより、私って劣っているという考えが自分の中にあるということがわかりました。そんな考え方、つまらない、じゃあどうしたらいいのか…。そのようなことを考え抜いた結果、とりあえず動くしかないと思い、2013年から心機一転して動くことに徹しました。そして、自分から動くことによって、新しい出会いと機会に出会うことができました。

一つの出会いはクラスメイトです。約八割のクラスメイトとは、前学期から同じクラスだったので、関係が大きく変わりました。前期は挨拶程度であまりしゃべらず、授業中も静かだった。しかし、後期はにぎやかなクラスになりました。授業中には積極的な発言、休憩時には廊下で雑談。ただのクラスメイトから友達へ、そして何人かは親友へ。まさか、サウジアラビア人の親友ができるなんて、留学前は考えてもいませんでした。本当に最高のクラスでした、みんなに会いたくてたまりません！

国や文化に執着せず、こいつ最高!と思えることは、大きな驚きと発見でした。私の考え方を進化させてくれた出来事でもあります。この留学の前までは、異文化が面白いと思っていました。そして、それをもっと異国の地アメリカで知りたい、体験したいということが私の留学への強い志望動機でした。今も、それは面白いと思いますし、私が英語を学びたい、海外へ出たい理由の一つであることに変わりはありません。しかし、ただそれだけではないということを知りました。

それを気づかせてくれたクラスメイトからの一言を紹介したいと思います。「Naomi と友達になったから、日本にも興味を持つようになったよ!」それを言われた時、感動と喜びと驚きが入り混じった不思議な感情がぐるぐると私の中に生まれました。「あれ、なんだかんだ日本人としての Naomi ではなく、Naomi がたまたま日本人だった、ということか! 友達である私が口ずさむ J-POP、私が持っている日本のもの、私が参加している日本語プログラム…私が関わっていて、そんな私と一緒にいるから、私を媒体に自然と日本に興味を持つようになったんだ…!! そう言えば私も、サウジアラビア出身の友人がいるから、あの子の国ってどこにあるんだろうって、知りたいって思うようになったんだ!!」異文化理解よりも大切な個人の魅力に気づかされました。上手く言えませんが、この出来事は自分の中で忘れることのない、大切なものとなりました。



親友たち



クラスメイトたち

他の出会いは、アメリカ人の学生との出会い。もちろん、前期もこの出会いはありました。しかし、それは日本語学科に所属しているアメリカ人学生との出会い。後期は、日本に興味のないアメリカ人学生との出会い。このように言うと語弊を招いてしまうかもしれませんが、日本語学科の学生は大切な友達です。日本に興味がある彼女たちとは、明白な共通点があり、仲良くなるきっかけはありました。どちらかといえば用意された共通点。そしてもちろん、そこから、親友以上の、家族のような最高の友達になるまでは、先述した共通点以上の何かがあったからです。話を戻しますと、一方で後期の出会いは、共通点がほとんどないということ、つまり相手からしてみれば、私は英語がつかない外国人という「ま、関わらなくてもいいかな」という存在でした。そんな彼らとの出会いは、大学主催のイベントに参加すること。積極的に、運営側として参加しました。特に自分の中で大きなイベントは、インターナショナルファッションショーとインターナショナルナイトでした。この二つのイベントは、国ごとに出し物をするというかたちの国際イベントでした。そして、私はどちらのイベントも日本チームの代表をさせていただきました。そのため、代表者のミーティングなども頻繁にありました。そこで出会ったのが日本に興味のない人たち。ミーティングで何がトピックとして扱われているのか、各チームがしなければならないことは何かを把握することは、絶対でしたし、自分へのプレッシャーともなりました。後から質問をしてやっと理解することができた私でしたが、質問をするということからも学んだこともあります。少し話が脱線してしまいましたが、私は、質問を少なくとも一回はすることを心がけました。自分を覚えもらうために。そうすると、「また Naomi、質問しなくていいの?」と話を振って

もらうことができるし、それが人と話すきっかけにもなりました。なによりも、この行動は私を知ってもらうチャンス!!!!このような自分のチャンスを自分で作り出していくということもアメリカで学んだことでした。イベントの代表になること、クラスでたくさん発言・質問すること、友達と一緒に過ごすこと…このような行動が私のチャンスとなり、私にたくさんの可能性をくれたと思います。



International fashion show

私が出会った新しい機会というのは、先述した大学のイベントや、友人たち(日本人3人・アメリカ人6人)と結成した合唱クラブ「international cuties」、トリド補習校での勤務、visiting schoolクラブへの積極的な参加などです。特に、私がたくさんのことを学ばせてもらった visiting schoolクラブについて、ここで話したいと思います。Visiting schoolクラブとは、留学生がフィンドレー市内の小学校や中学校を訪問し、それぞれの出身国についてプレゼンをするという活動をメインとしたクラブです。私は、少なくとも月に二回は、小学校へ行きました。まず、学んだことは伝えるということ。ただ私が話すだけでは、おもしろくない…。ゲームをする?日本語を教える?紙芝居を読もうか…?たくさん考えて用意することは、難しく、そして楽しかったです。驚いたことは、彼らの質問の嵐!質問タイムを設けると、ほぼ全員が手を挙げることに、そんな質問をしてくる?という質問をしてくることに驚かされました。そして、彼らがアメリカ以外の国をあまり知らない、とくに興味もないということを知りました。これは悪いことではありません。ただ、私が好きなことを彼らが知らないということでした。私が英語を好きなこと、留学したいと思っていたこと、旅行が好きなこと、大学で観光学を学んでいること…その理由は、今まで出会ったことがないモノ・人に出会うワクワクが好きだからです。そのワクワクの楽しさ・面白さを知らないなんてもったいない!と勝手に思うようになりました。できるだけこのクラブに参加した大きな理由が、そのワクワクを広めたい!という私の思いです。また、これを受けて、genki kidsという visiting schoolと同じようなプログラムにも参加するようになりました。私が、彼らに少しでもワクワクをプレゼントすることができたなら嬉しいです。ただ課題も残りました。盛り上げ方が下手であるという点です。面白さの中心にいて、周りを盛り上げるということが上手くできなかったということです。クイズやゲームなどのアクティビティを考えて、みんなとすることができても、盛り上げるということが満足にできませんでした。盛り上がればもっともっと楽しい

ものになるとわかっていたのに、そして自分が好きなことにも関わらず、上手くできなかったことは悔しいです。これからの課題です。



international cuties: 喫茶店で歌わせていただきました

自分で私がしたいことを考え、行動に移した結果、ここには書ききれないほどの素敵な出会いと経験をすることができました。そして、それらから、自分は自分だと気づかされました。みんな「が」すごいではなく、みんな「も」すごいと考えるようになりました。

留学という特殊な環境は、自分次第で変わっていきます。私の場合、自分が挑戦したいことも、あまりやりたくないと思ったことも、チャンスだ!と思って挑戦しました。挑戦しすぎて体調を崩してしまったことも、悩んだこともありましたが、動いて良かったと心から思います。動いたから、たくさんの出会いに恵まれ、「最高の一年だった!」と胸を張って言うことができるのだと思います。これから留学に行かれる方、留学先では、動いて動いて出会いと経験を自分から掴んでいってください!

沢山の人の出会えて、多くのことを経験することができた私は本当に幸せ者です。これから先、どのようになるのかわかりませんが、Findlay で学んだことを生かし、動き続けます! 自分の世界をぐんぐんと広げ、ワクワクしていきます!!

最後にもう一度、私に今回の機会を下さったみなさん、家族・友人、そして Findlay で出会えたみなさんに感謝の気持ちを言わせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。



大切な大切な友人であるハウスメイトたち



友人たちと大学主催のピクニックに参加